

②レストランプロジェクト

各レストランとも順次開始から1か月を迎えるが、利用者の反応を見て、全店舗1か月のプロジェクト延長となった。

写真: Wesole Pierozkiクーポン利用者



母国の料理を食べて喜んでいる様子。
「助けてくれてありがとう」と話してくれた。

③児童養護施設等への支援活動

・ポーランド北部にある児童養護施設・Powiatowe Centrum Młodzieży w Garczynieでは福田会で雇うウクライナ人教師2名が最終決定し、契約書へのサイン待ちの段階となっている。

・ウクライナ避難民の子どもへの為の体育用品を購入したキエルツェの小学校から写真を受け取った。(写真はボールを手に笑顔を浮かべる子どもたち)



・クラクフ市内にあるウクライナ人避難民のための託児所を視察訪問。



こちらでは100人の子どもたちを預かっており、20名のボランティアスタッフが交代制で子どもの世話をしている。

現状可能な支援は消耗品などの物資支援ということで、責任者と連絡を取り様子を見ている。

④メディア放送

テレビ東京・ワールドビジネスサテライト番組内にて福田会の活動が取り扱われた。

映像については、受け取り次第シェア予定。

【現地の動向】

- ・ポーランドに流入したウクライナ避難民の数は、約298万人(4月27日時点)とされている。
- ・クラクフ市が運営する4つの避難所は資金難のため7月末で閉鎖とされている。
(今後、延長となるかは市の決定を待つしかなく、まだ何も分からない状況という。)
- ・侵攻から2か月以上が経過し、各支援所ともボランティアスタッフの数が不足してきている。(クラクフ市運営の避難所では、一番必要なのは何か質問したところ、“ボランティアスタッフ”と回答した。)



ウクライナのイースターであった4月26日は、多くのウクライナ人が避難テントへと駆け付けた。

支援所ではいつもとは少し違ったお菓子などが配布されており、避難民たちも顔を綻ばせ喜んでいた様子。

【今週の活動予定】

・各シェルターへの継続した支援物資提供

平日14時にクラクフ中央駅構内簡易避難所、およびカリタス支援所へ支援物資を提供している。今週からポーランドでは連休に入り多くの店が閉まるため、連休明けには人手・支援物資の不足が予測される。そのため、1度の買い出しで多めの支援物資を購入する予定。

・レストランプロジェクト

プロジェクトの認知度が高まり、プロジェクト参加店から「想定を超える数の利用者が来ている。」との声があった。各店舗バランスよく利用者が集まるよう、配布場所を再度検討。

・児童養護施設等への支援

福田会で雇用するウクライナ人教師2名について、今週中には契約書へのサイン&契約締結を目標とする。子どもたちのための支援物資のヒアリング及び提供。

・Hope for Mundial(子どもたちのためのサッカーワールドカップ主催団体)への支援

引き続き支援内容について調整中。